

令和7年度 学校関係者評価書

1. 5つの「重点的な取組事項」について

(1)「自己評価書」全般について

- 自己評価書は、具体的に細かく分析されています。加えて単なる評価分析に終わらず、最後の「まとめ」には今年度重点的に取り組んだ特別活動に関する取組み・成果に加え、次年度に向けた課題及び解決の方向性が示されているので、校長先生の思いは、学校関係者にもよく伝わります。
- 5つの重点的な取組み事項の、「目標実現に向けた取組み」各項目の評価も、◎7、○10、△3とメリハリのある評価がなされており、以前の学校関係者評価で指摘されていた「自己評価が低すぎる」ということは感じません。
- 以上より、5つの重点的な取組事項の達成度合いを含めた学校自己評価は概ね適正と考えます。

(2)「学力向上アクションプラン」「体力の向上」「心の醸成」、「保護者・地域との連携協力による教育活動の充実」について

- それぞれの重点項目について、具体的な事実や数値に基づく評価・分析がなされています。特に、学力向上については昨年からの多くの継続項目について着実な成果と前進がみられたと感じます。

(3)「特別活動の充実」について

- 今年度新たに重点的に取り組んだ、「特別活動の充実」については、教職員向け事前研修もあって、学級活動・児童会活動の顕著な充実（様々な児童発案の活動・成果等）に結びつき、素晴らしい成果が出た、と考えます。

2. 学校関係者としての思い

- 開かれた学校づくり協議会は、今後も先生・保護者・地域間のコミュニケーションを最重視していきます。
- 今年度、新規取組事項として校長先生から詳しく説明あった、「特別活動の充実」については、学級活動の充実や、児童会活動の充実といった成果が、学級経営の改善につながり、保健室利用の低下、いじめ認知数減少、図書貸出数の増加、学力テスト成績の向上等、好影響があったことが分かります。今後も大きく期待します。
- 達成出来ている項目（◎・○）は次年度も良い状態の継続を期待します。また、△としている項目については、記載されている改善に向けた取組みが、次年度着実に実践できることを期待します。
- 本協議会は、今後も先生、保護者がさらに活躍できるような環境作りに寄与していきたいと考えます。